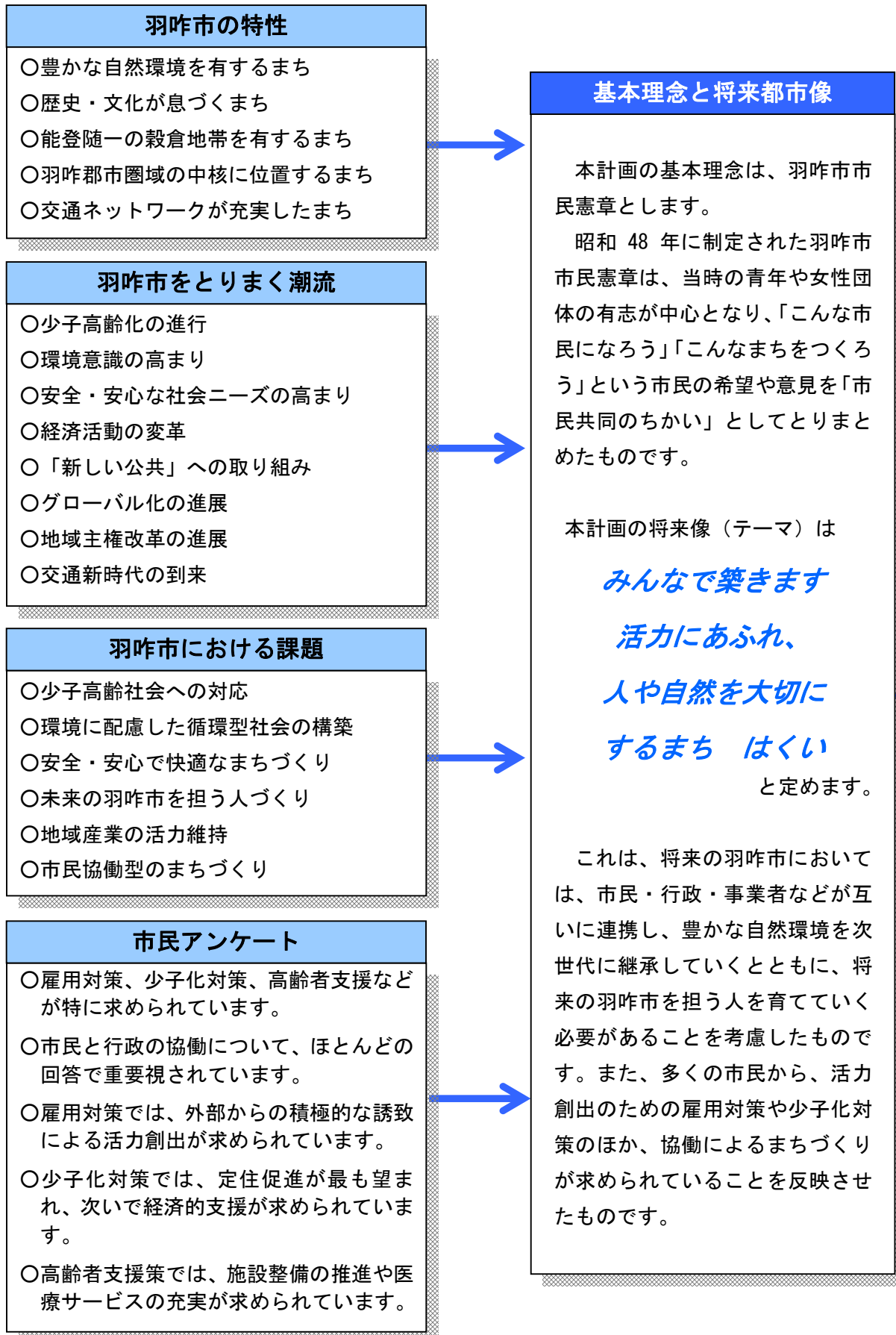


第5次羽咋市総合計画 体系図



【施策の大綱】

基本目標①

みんなが元気に
暮らせるまちづくり

- ①高齢者福祉の充実
- ②障がいのある人への支援
- ③次世代に向けた子育て支援の充実
- ④社会保障の充実
- ⑤健康づくりへの支援
- ⑥地域医療体制の充実

基本目標②

安全・安心で環境に
やさしいまちづくり

- ①自然と共生する生活環境の保全
- ②低炭素・循環型社会の推進
- ③消防、救急、救助体制の整備
- ④地域防災の充実
- ⑤交通安全・防犯対策の推進
- ⑥安全・安心な消費生活の推進
- ⑦緑豊かな環境づくりの推進
- ⑧道路網の整備
- ⑨良質な住生活の推進
- ⑩上水道の整備
- ⑪下水道等の整備

基本目標③

いきいきとひとが
輝くまちづくり

- ①学校教育の充実
- ②青少年の健全育成
- ③生涯学習の推進と市民文化の創造
- ④生涯スポーツの振興

基本目標④

活気と魅力の
あふれるまちづくり

- ①農業の振興
- ②林業の振興
- ③水産業の振興
- ④工業の振興
- ⑤商業の振興
- ⑥多彩な観光交流の推進
- ⑦労働環境の整備
- ⑧地域固有の歴史・文化の継承と活用

基本目標⑤

市民が主役となる
まちづくり

- ①協働によるまちづくりの推進
- ②都市間交流の推進
- ③人権尊重と男女共同参画社会の実現
- ④地域情報化の推進
- ⑤市民の視点に立った行財政運営の推進

第一部 序論



第1章 総合計画策定にあたって

第1節 総合計画策定の背景と目的

羽咋市は、昭和46年3月に「羽咋市長期基本計画」、昭和56年6月に「羽咋市総合計画」、平成3年6月に「第3次羽咋市総合計画」、平成13年3月に「第4次羽咋市総合計画」を策定し、これらを行財政運営の指針としながら、長期展望に立ったまちづくりを進めてきました。

特に第4次羽咋市総合計画では、「健やかで心豊かに、自然と共生するまち はくい」を将来都市像に掲げ、安心して暮らせるまちづくり・人づくり・産業の活力づくりなどに積極的に取り組んできました。

しかし、この10年の間に、羽咋市をとりまく環境は、これまで以上の大きな転換期を迎えています。特に進行する少子高齢化への対応や停滞が続く地域産業の活性化、環境対策の充実、教育環境の整備、防災対策の充実、地域主権改革への対応など、早急に取り組まなければならない課題が多く存在しています。

本計画は、だれもが暮らしやすく活力のある羽咋市のまちづくりを達成するために、市民と行政の協働により確実に進めていくための指針・方向性を明確にするものです。

第2節 総合計画の構成および目標年次

第5次羽咋市総合計画は、「基本構想」と「基本計画」で構成します。

1 基本構想

基本構想は、羽咋市の将来都市像（テーマなど）や基本目標、将来の人口規模（フレーム）などを明確にし、それらを実現するための施策の大綱を示します。

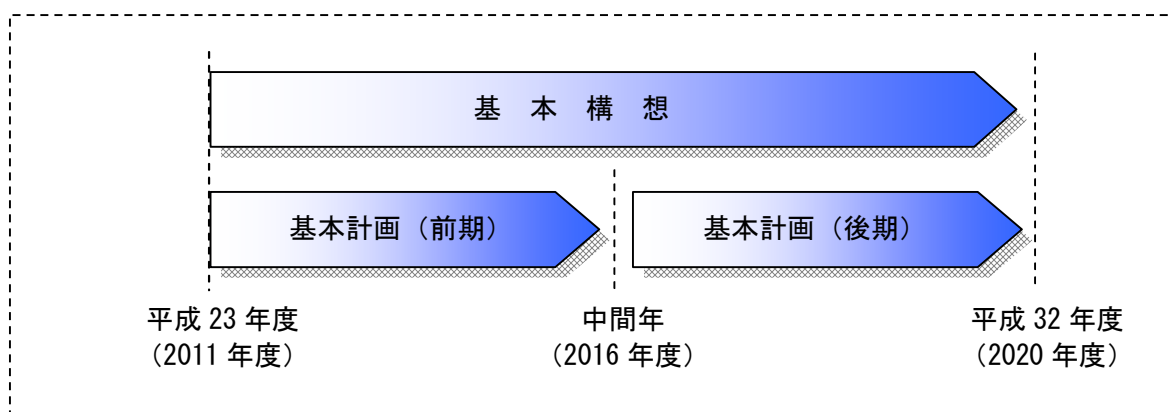
基本構想の対象とする期間は、平成23年度（2011年度）から平成32年度（2020年度）までの10年間とします。

2 基本計画

基本計画は、基本構想で示した施策の大綱をより具体化し、目指すべき羽咋市の将来像を実現するための具体的な方針および取り組みを示します。

基本計画の対象とする期間は、基本構想と同様に平成23年度（2011年度）から平成32年度（2020年度）までの10年間としますが、後半の5ヵ年に関しては、社会情勢の変化などを加味し、「後期基本計画」として見直しを行うものとします。

【第5次羽咋市総合計画の構成および目標年次】

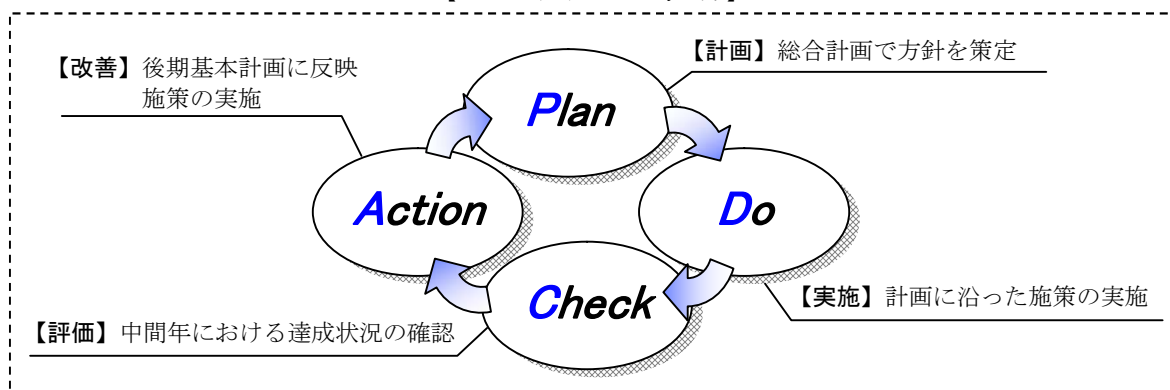


第3節 総合計画の推進

総合計画の推進に際しては、羽咋市を取り巻く社会情勢の変化等に対応し、市民と協働で進めていくものとします。

また、本計画ではPDCAサイクルの考え方に基づき、目標指標をまちづくりの目標値のひとつと捉え、目標達成に努めるとともに、中間年においてはこれらの数値の達成状況をチェックし、必要に応じて計画の見直しを行います。

【PDCAサイクルの考え方】



第 2 章 羽咋市の特性

1 豊かな自然環境を有するまち

邑知平野を中心に、西には千里浜・一ノ宮・柴垣海岸を有する日本海、東に碁石ヶ峰、北に眉丈山系を有するなど、羽咋市は豊かな自然と変化に富む地形に恵まれています。またこれらの自然は四季折々に表情を変え、いにしえより人びとの日々の営みを見守り、心を癒してきました。

これらの豊かな自然を有することが、羽咋市の特性と言えます。

2 歴史・文化が息づくまち

「はくい」の名は、古くは万葉集や古事記にさかのぼり、市内では多くの遺跡が発見されています。このほか神社仏閣などの指定文化財も多く存在し、神事や伝統行事が現在に伝えられています。

こうした歴史や文化と自然環境が溶け合って独特の風土を生み、生活に息づいていることが羽咋市の特性と言えます。

3 能登随一の穀倉地帯を有するまち

羽咋市のほぼ中央に広がる広大な邑知平野は、水稻耕作を中心とした能登随一の穀倉地帯です。これまでに、邑知潟の干拓を始め、ほ場整備を行うことにより、農地の確保と集約を図り、農道整備や農作業への大型機械の導入を可能にするなど、農業経営の環境整備に努めてきました。

このように広大な穀倉地帯を有することが羽咋市の特性と言えます。

4 羽咋郡市圏域の中核に位置するまち

羽咋市は能登半島の付け根に位置し、北は中能登町・志賀町と、東は富山県氷見市、南は宝達志水町に隣接しています。また、中能登地域では七尾市に次ぐ人口を有する拠点都市として、そして羽咋郡市圏域では中核都市として、他市町と連携しながら、多様化・高度化する行政課題に取り組んできました。

羽咋郡市圏域の中核としての位置づけが、羽咋市の特性と言えます。

5 交通ネットワークが充実したまち

羽咋市は七尾市と金沢市を結ぶ国道 159 号や国道 249 号、氷見市に通じる国道 415 号、国道 415 号羽咋バイパスから邑知潟大橋を通り志賀町へ至る広域農道、東的場町から七尾方面に伸びる北潟農免道路などが交差する交通の結節点であるとともに、JR 七尾線や能登有料道路などの交通ネットワークも有し、能登半島の玄関口としての拠点となる地域です。

さらに、平成 25 年の能登有料道路の無料化や、平成 26 年度の北陸新幹線金沢開業が予定されており、羽咋市へのアクセス性がますます高まることが期待されます。

これらの交通利便性の高さが、羽咋市の特性と言えます。

第3章 羽咋市をとりまく潮流

1 少子高齢化の進行

進行する少子高齢化を受け、我が国は人口減少社会となりつつあります。羽咋市の人口は昭和56年以降減少を続けているとともに、高齢化も進んでいます。また、若年層の減少や晩婚化などにより、子どもの数も年々減少しており、今後、さらなる人口減少や少子高齢化が進むことが予想されます。

2 環境意識の高まり

地球温暖化や森林の減少、多発する自然災害などを受け、地球規模の環境意識の高まりがみられています。

羽咋市においても、千里浜の海岸線の侵食が年々顕著となるなど、自然環境の変化が市民にとっても身近な出来事になりつつあり、市民の環境に対する意識の高まりや、行政の環境に対する取り組みが今後さらに重要となることが予想されます。

3 安全・安心な社会ニーズの高まり

国内外を問わず、自然災害の多発や、悲惨な事故や事件の発生、食の安全問題などが近年クローズアップされており、安全・安心に対するニーズは今後さらに高まっていくことが想定されます。

特に平成19年3月の能登半島地震では、災害に強い施設整備の重要性だけでなく、地域コミュニティの重要性と共助の仕組みの必要性も再認識することとなりました。

今後の羽咋市においても同様に、市民の生命や健康、そして財産を守り、安全で安心して暮らせるまちづくりへのニーズが高まることが予想されます。

4 経済活動の変革

平成20年9月のリーマン・ショックに端を発した世界的な不況により、我が国の経済も停滞傾向にあります。近年はアジアを中心に経済は緩やかに持ち直してきていますが、地方都市においてはまだまだ経済が上向いているとは言えない状況にあります。

羽咋市においても、事業者数や商店数の減少が続いており、今後は地域の活力を支える商工業の充実が必要となります。

5 「新しい公共」への取り組み

行政が提供する公共サービスでは、多様化する人々のニーズにきめ細かく応えることが難しくなってきています。

そのため、これまで行政が行ってきた教育や子育て、まちづくり、防犯・防災、環境保全、医療・福祉、消費者保護などの公共サービスの提供に地域住民や町会、NPO、企業などが主体となって参加する「新しい公共」の取り組みが求められています。

6 グローバル化の進展

近年は経済問題をはじめ、人口、環境、食料問題など幅広い分野にわたるグローバル化が進展しています。そのような流れの中、産業や交流活動など、国内はもちろんのこと、国外も含めたグローバルな視点での活動がますます重要になると予想されます。

そのため、今後も中国の通州市との国際交流の継続的な推進など、国際化に対応していくことが求められています。

7 地域主権改革の進展

平成 22 年に地域主権戦略大綱が閣議決定され、地域主権改革が推し進められています。地域のことは地域に住む住民が責任を持って決めることのできる活気に満ちた地域社会をつくっていくことを目指すもので、地方公共団体の権限と責任が高まると考えられます。

そのためには、羽咋市においても、行財政運営の見直しや財政基盤の強化など、地域主権改革の時代にふさわしい行政システムの確立や、市民と行政との協働によるまちづくりを進めることが必要となります。

8 交通新時代の到来

羽咋市を取り巻く交通環境は大きく変わりつつあります。志賀町へ伸びる広域農道や、七尾市へ通じる北潟農免道路の整備、国道 159 号羽咋道路の事業化、国道 415 号バイパスの整備、能登有料道路の無料化により、県内外への人や物の交流を活発にしていけることが求められます。さらに北陸新幹線金沢開業により、関東・信越圏が身近に感じられるようになることから、これらの交通ネットワークを活用していくことが必要です。



羽咋市をとりまく交通状況

第4章 羽咋市における課題

1 少子高齢社会への対応

子どもの数が減少している中、次世代を担う子どもを安心して生み育てることができる環境のさらなる充実を図っていく必要があります。

将来、高齢化がさらに進行することが予想される中、高齢者が安心して生活できるように、介護予防や地域福祉活動の推進、医療をはじめとした社会保障の充実などが課題となります。

また、人口の減少や高齢化は、地域コミュニティの弱体化を招くほか、農林水産業や商工業など、羽咋市を支える産業の人材不足にもつながります。そのため、若年層の定住人口の確保が求められます。

2 環境に配慮した循環型社会の構築

羽咋市が有する豊かな自然を次世代に継承していくため、市民・行政・事業者が互いに連携し、ごみの減量（リデュース）、再使用（リユース）、再利用（リサイクル）の3R運動を推進するとともに、それぞれの役割や責務を再認識することで、環境負荷の少ない循環型社会の構築を進めていく必要があります。

3 安全・安心で快適なまちづくり

平成19年の能登半島地震や平成23年の東日本大震災、平成22年の邑知潟断層帯（活断層）の新たな調査結果により、羽咋市における大規模災害に対する防災体制の整備充実が求められています。また、火災や犯罪、交通事故などに対しても、消防・防犯・救急体制や交通安全施設の充実など、市民の生命や財産を守っていくための体制づくりが必要です。

また、市民が快適に過ごせるように、公園・緑地や道路、上下水道などの社会資本の整備や維持管理を適切に行うとともに、良好な都市景観の形成などを図っていく必要があります。

4 未来の羽咋市を担う人づくり

近年の教育を取り巻く環境は急速に変化していますが、その中で、羽咋市の将来を担う子どもたちが、さまざまな体験や交流を通じて、自分を大切に、他人を尊重しあえる豊かな人間性を育むことのできる環境づくりが大切です。

そのためには、地域性を生かした特色ある教育の推進や基礎学力の定着、施設整備などの学校教育の充実はもとより、学校や家庭、地域が連携して、子どもたちを育てる環境づくりの充実がより一層必要となります。

また、高齢化が進む中、高齢者の社会参加を進めるうえで、生涯学習は大きな役割を果たします。

そのためには、多種多様な講座・教室の開講など生涯学習内容の充実はもとより、活動の中心となる指導者やリーダーの育成と確保、学習成果を発揮できる場の確保などが必要となります。

5 地域産業の活力維持

地域の雇用や活力の創出には、農林水産業、工業、商業および観光業などの振興が必要不可欠です。

就労者の高齢化と共に、後継者不足が進んでいる農林水産業では、付加価値商品の開発やブランド化、観光など他業種と連携した取り組みを推進し、産業として自立していく必要があります。

また、新たな企業誘致や地場産業の育成はもちろん、既存企業拡大の支援に努めていくことが求められます。

商店街の賑わいづくり、歴史的建造物や自然景観を観光資源として活用するほか、北陸新幹線金沢開業、能登有料道路無料化に合わせた交流人口の拡大を図っていく必要があります。

6 市民協働型のまちづくり

地域主権改革が進む中、市民の参画のもと、自己決定と自己責任に基づいてまちづくりを行っていくことが地方自治体には求められています。

その中で、羽咋市は「市民活動支援センター」の設置により、市民団体の育成支援や情報提供に努めてきましたが、今後も住民が参加しやすいように行政サービス内容を充実させていく必要があります。

また、地域コミュニティの維持のために、町会をはじめ、地域活動団体や市民団体、公民館、企業などがそれぞれの役割を果たしながら、連携してまちづくりに参画できる仕組みづくりが必要です。

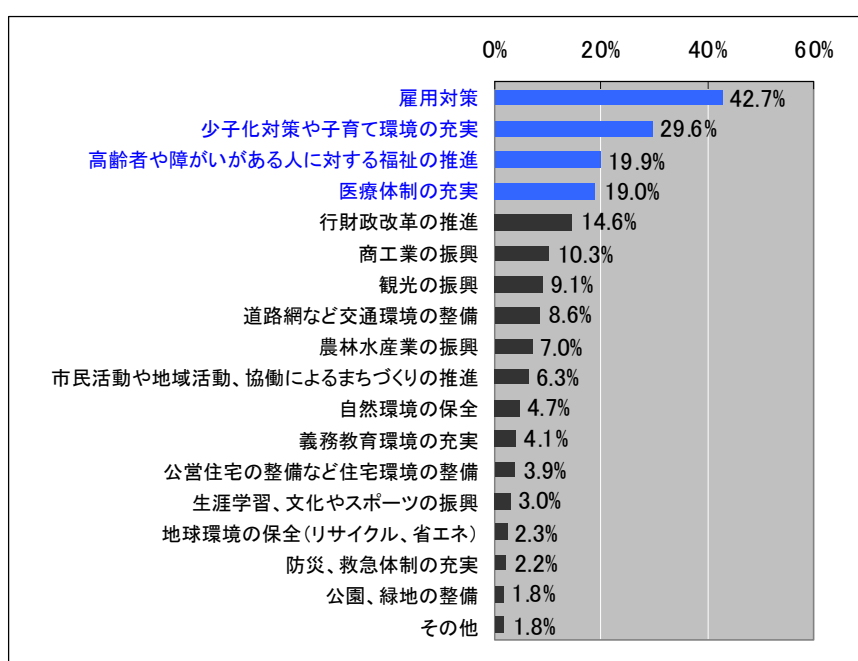
第5章 市民アンケート

第5次羽咋市総合計画市民アンケート調査（市民1,082名から回答）では、主に以下のような意見が挙げられています。

1 今後10年間で力を入れるべき分野

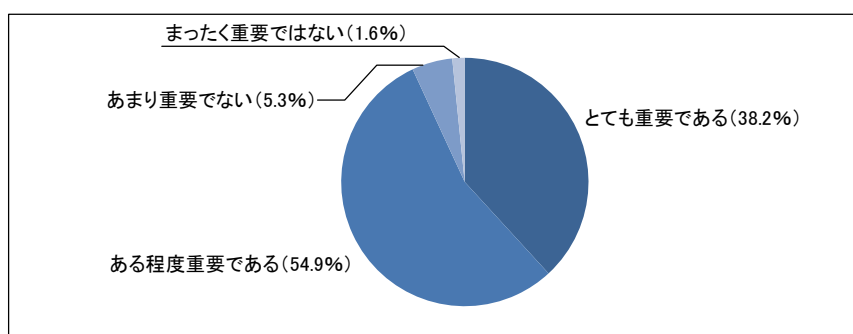
「雇用対策」(42.7%)が最も多く、次いで「少子化対策や子育て環境の充実」(29.6%)、「高齢者や障がいがある人に対する福祉の推進」(19.9%)、「医療体制の充実」(19.0%)となっています。

これらより、羽咋市の活力維持や定住人口の確保などが最も求められているとともに、少子高齢化対策や福祉対策の充実も求められていることがうかがえます。



2 市民と行政の協働について

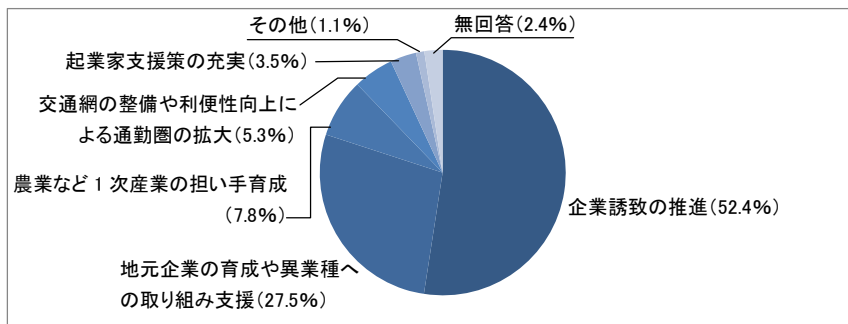
「とても重要である」「ある程度重要である」合計で93.0%と、ほとんどの回答者が市民と行政の協働を重要視しています。



3 個別の施策について

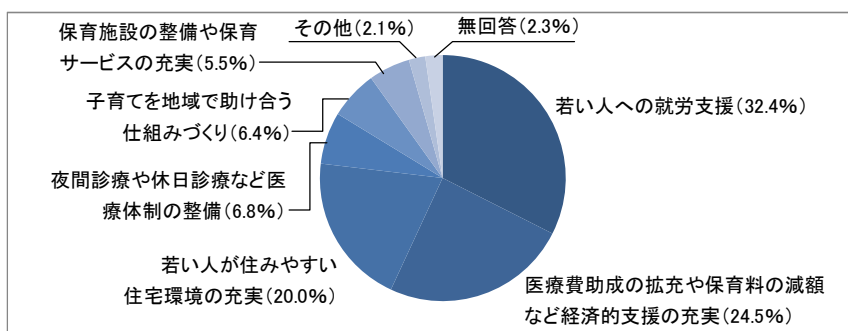
(1) 雇用対策について

「企業誘致の推進」が最も多く 52.4%と半数以上を占めており、積極的な外部からの誘致による活力創出が求められています。



(2) 少子化対策について

「若い人への就労支援」が 32.4%と最も多く、次いで「経済的支援の充実」が 24.5%となっています。



(3) 高齢者支援策について

「施設整備の推進」が 25.0%と最も多く、次いで「医療サービスの充実」が 20.6%となっています。

